

## 韓国原子力産業協会 (KAIF) 年次大会参加概要報告

2025 年 5 月 7 日  
(一社) 日本原子力産業協会

当協会の増井理事長は、4 月 29 日～30 日に韓国・ソウルにて開催された第 40 周年記念 KAIF 年次大会に参加した。この機会に、日本の原子力発電の現況を韓国に発信するとともに、海外市場に関心の高い会員企業を参加者に紹介した。

大会の基調テーマ：「原子力のレジリエンスと多様な貢献」

| 日時      | セッション             | セッションテーマなど                          |
|---------|-------------------|-------------------------------------|
| 4/29(火) | セッション 1           | 「60 年を超えて：世界水準の優れた運転」               |
|         | オープニングセッション       | ・開会挨拶(韓国原子力産業協会 ファン会長)<br>・表彰式/基調講演 |
|         | 特別セッション           | 「将来の電力市場へ対応する原子力」                   |
|         | セッション 2           | 「原型炉を超えて：SMR の市場参入」                 |
| 4/30(水) | セッション 3           | 「原子力導入の加速：世界規模のエネルギー移行」             |
|         | 高レベル放射性廃棄物特別セッション | 「将来の放射性廃棄物管理：課題と機会」                 |

また、並行開催された国際原子力産業展示会では、韓国企業を含め 10 カ国(※)から 32 社の出展があり、当協会会員企業の(株)ムロオシステムズも出展された。なお、出展企業 32 社のうち、海外企業が半数以上の 18 社出展していた。

※ 韓国、フランス、米国、カナダ、スペイン、チェコ、トルコ、アラブ首長国連邦、南アフリカ、日本



KAIF 年次大会風景



企業展示 ムロオシステムズ

### 1. 増井理事長の登壇について(当協会・日本のプレゼンス)

当協会の増井理事長は、セッション 1 「60 年を超えて：世界水準の優れた運転」に登壇し、日本の第 7 次エネルギー基本計画での原子力の位置づけの変化及び 60 年運転の除外期間などについて紹介した。



## 2. 増井理事長の記者会見対応について(当協会・日本のプレゼンス)

KAIF 年次大会期間中に韓国メディアからの取材要請に基づき、増井理事長は記者会見を実施した。韓国メディアからは「原子力分野において韓国と協力できる可能性のある分野」及び「福島第一原子力発電所の事故以降の国民理解に対する取組み」などについて質問を受け、日本の原子力発電の現況及び今後の課題について、韓国国内でも理解が深まるよう説明した。



増井理事長 記者会見①



増井理事長 記者会見②

## 3. 国内向け発信について(当協会の活動)

当協会ウェブサイトにて本件の参加報告を掲載した。また、X(SNS)にて本件に係る4件の報告を投稿した。

※ 4件：増井理事長の登壇、増井理事長の記者会見、会員企業の企業展示出展、KAIF との関係強化

## 4. 国際機関及び各国の原子力関係者との関係維持・強化について

世界原子力協会(WNA)のサマ事務局長と会談を行い、相互の活動計画を共有し、今後も協力していくことを確認した。また、会場でお会いした当協会と関りのある海外原子力産業関係者、有識者の方々に当協会の取組みへの協力及びイベントへの参加に対し、御礼を申し上げた。

## 5. KAIF 年次大会企業展示参加者などへの当協会会員企業の紹介について

約40名の参加者に対し、日本の企業との協業に関心があれば、当協会が運営するウェブサイト Nuclear Industrial Directory of Japan の掲示板へ自社の紹介と日本企業のビジネスパートナーを探しているという趣旨の書込みを依頼した。

5月8日にKAIF 年次大会での出展企業1社から同サイトへの登録があり、書き込みを再度依頼した。

以 上